

グループワークの進め方

1 目的

条例に盛り込みたい言葉や文章について、グループで話し合い、その結果を全体で共有し、条例の検討材料とする。

2 手法

- (1) 条例に盛り込みたい言葉や文章について、意見を出し合う。
- (2) 意見は、付箋に記入する。
- (3) 付箋の意見が以下のうち、どこに該当するか分類し、指定の用紙内に貼り付ける。
 - ① 理念・考え方
 - ② 施策・手法
 - ③ 組織・体制
 - ④ その他
- (4) グループで話し合った内容について、発表する。

【参考】第2回会議での委員意見（条例に期待すること）

■子ども・若者の主体性

- ・ 子ども・若者の主体性を強く打ち出すべき。
- ・ その子の個性（良さ）を活かして、できない部分を補完するように支援。
- ・ 「主体的」とはどういうことなのか、言葉を重ねた方がわかりやすくなる。

■子ども・若者の意見を大人が尊重する

- ・ 子どもの自由な発想、社会の価値変化とリンク。
⇒ 子どもが自分の意見を尊重できて、当たり前のように発言できるように。
- ・ 幸せの価値観は時代で変化。子どもの個性や多様性を大人が大切に。
- ・ 子どもみらい会議など、子どもの提言を活かす。

■子ども・若者をとりまく大人への働きかけ

- ・ 子ども・若者を取り巻く問題を、大人の問題としてとらえるべき。
- ・ 子どもが自分の意見を持てるように、親への働きかけを。
- ・ 地域の大人が、子どもとのつながりや、支援する役割を持てるように働きかけを。

■子ども・若者同士が支え合う

- ・ 周囲が子ども・若者を支えるだけでなく、子ども・若者同士が互いに支え合う要素を。
- ・ 子どもも、子どもの支援について考え、補完的に支援する感覚を身につけることが未来のまちづくりにつながる。

■関係機関の連携、支援

- ・ 制度や年齢による支援のはざまにおける、連携のしくみ。(連携の手渡し・バトン)
⇒行政、市民、地域、NPO、学校、関係機関が連携する仕組み・チェック機能を
- ・ 関係機関が自分事として考えられるような表現を。
- ・ 不登校やひきこもりなど、誰ひとり取り残さないように。
- ・ 青年期の自立支援の取組の要素を。

■子ども・若者に伝わりやすい表現

- ・ 「自分らしく」は小学生には難しい。「自分の良さを活かして(見つめて)」などに。
- ・ 子どもに響く言葉を。
- ・ 条例はみんなが大事にするべきことを示す基盤なので、ポジティブな表現に。
- ・ 子ども・若者に伝わりやすい・理解しやすい表現に。

■違う価値観を知る・認め合う(⇒自己肯定感の向上)

- ・ 学校や幼稚園など、多様な人が集まる、出会いの場を大切に。
- ・ 子どもの特性はさまざま。学齢が上がり、周囲と同じようにできない子は、責められることで自己肯定感が低下
⇒ 大人がその子の成長の段階を理解し、寄り添ってあげられる社会に
- ・ 若者相談では、自己肯定感の低さや不安を訴えている子が多い。違う価値観を知らないことで、差別が生まれ、自己肯定感が低下してしまう。
⇒ 違う価値観を教えてくれる仲間が大切。できる子もできない子の話を聞き、理解することで新しい視野が開けて成長できる。
- ・ 認めてもらうことは自信につながるので、お互いに認め合うという要素を。

■その他

- ・ 子ども・若者に関する調査など、実態を踏まえて議論を
- ・ 意見を言わない子ども・若者も元気になれる要素を。
- ・ 子どもが地域に参加するチャンスや自分たちが過ごす場を自分たちでつくるチャンスがあることで、地域の担い手になる学びにつながる。
- ・ 子どもの権利は、一般的な基本的人権に加えて、子ども特有の配慮が必要。子どもの権利をみんなで共通認識に。